

# JA自己改革推進レポートについて

令和3年7月21日  
JA鳥取県中央会

## 1. JA自己改革実践状況

### (1) JA鳥取いなばの取り組み

#### ① らっきょう漬け方WEB講習会

6月2日、福部らっきょう漬け方講師の会の香川会長とJA鳥取いなば福部支店の加武田さんが、JA全農とつとりが開いたらっきょうの漬け方WEB講習会の講師を務めた。例年は全国各地で講習会を開き好評だったが、本年はコロナ禍のため同JA湖山本店でのリモート開催となった。

講習会では、東京の生活協同組合コープみらいの参加者24人に特産らっきょうのおいしい食べ方を伝えた。



#### ② JA役員・JA女性会委員との懇談会

JA鳥取いなば女性会は6月16日、同JA本店でJA常勤役員と懇談会を開き、JA事業の取り組みについて意見を交わした。

女性会からは、各支店や子会社の接客対応やJA自己改革の取り組みについて意見をいただいた。また、営農指導などの専門知識を持つJA職員育成の要望があった。

同JAの影井組合長は「日々の女性会の活動に感謝している。いただいた意見を真摯に受け止め、



各事業の活性化に向け力一杯取り組みたい」と応えた。

#### ③ 第26回JA鳥取いなば女性会大会・家の光大会

JA鳥取いなば女性会は6月26日、「第26回女性会大会・家の光大会」を同JA本店で開いた。家の光3誌を活用した仲間づくりの積極的な取り組みや国連の持続可能な開発目標（SDGs）の実践に取り組むことを確認した。

体験発表では、同女性会郡家支部の平尾さんが介護支援専門員（ケアマネージャー）の経験や「家の光」記事を活用したブレスレット作り方などの体験学習を踏まえ、「コロナ禍でできないことを嘆くより、できる活動をみんなで考



えること」の大切さを訴えた。

#### ④ 大黒なす美出荷査定会

J A鳥取いなば大黒なす美生産部は6月28日、千両ナス「大黒なす美」の出荷査定会を同J A湖山集出荷施設で開いた。

生産者、J A担当者ら17人が参加し、生育状況や市場情勢を確認した。また、形や色・ツヤ、大きさなどを確認し、見栄えをそろえるための詰め方などを指導した。

同J Aでは、13人が25アールで栽培し、令和3年度は出荷量約15トン进行計画している。



### (2) J A鳥取中央の取り組み

#### ① 子ども食堂に農畜産物引換券を進呈

J A鳥取中央は6月2日、倉吉市社会福祉協議会において、向井常務から子ども食堂「ほっとここ」の田中代表に、直売所で使える農畜産物引換券を進呈した。引換券は、同協議会を通じて「テラハウス」、子ども料理教室「はばたき人権文化センター」にも贈られる。

子ども達に地元の農産物を食べてもらうことで地元の農業を知り故郷を愛する心を育てることが狙いで、年間を通じて子ども食堂へ引換券の他、旬の食材の提供も行っている。



#### ② WEBでぶどうトップセールス

J A鳥取中央は7月5日、大阪中央青果と京都青果合同とテレビ会議をつなぎ、令和3年産J A鳥取中央ぶどう販売促進WEBトップセールスを行った。

会議では、同日に初販売を迎えた「デラウェア」を初荷と合わせて市場側に送り、産地側と市場側で生育状況の説明と食味を確認した。7月下旬出荷予定の「ピオーネ」と8月下旬出荷予定の「シャインマスカット」については、ほ場の動画を流しながら現在の生育状況を説明した。

同J Aの栗原組合長は「鳥取県の豊かな自然環境と農家の努力により自慢できるぶどうに仕上がっている。食味の良さを消費者に伝えて有利販売に努めてほしい。」と呼び掛け、一方市場からは「デラウェアの酸味の抜け具合や糖度、粒張りなど他産地に負けていない品質の高さをいかして最後まで販売していく。」と意気込みが伝えられた。

令和3年産は「デラウェア」や「ピオーネ」、「シャインマスカット」なども含め全体で約262t、3億4千万円の出荷・販売を目指していく。



### ③ 6月期 いきいき農業塾を実施！

J A鳥取中央は倉吉市のバイテクセンターで第18期いきいき農業塾を開き、受講生14人が参加した。

同塾はJ A管内の農業基盤の拡充・活性化、家庭菜園者への栽培指導を目的としており、同J A下中営農アドバイザーが、トマト・ナス・ピーマン・カボチャの栽培と管理方法を説明した。タマネギ・ニンニクの保存方法について学習した後は、

実習としてそれらの収穫も行い塾生それぞれが持ち帰った。塾生は「たくさん採れたので、さっそく学んだ保存法を試してみたい」と笑顔で話した。



### ④ 「中部発！食のみやこフェスティバルスタンプラリー～今年はお店で食フェス～」抽選会を実施！

食のみやこフェスティバル実行委員会は、「中部発！食のみやこフェスティバルスタンプラリー～今年はお店で食フェス～」の抽選会を開いた。

同会の実行委員長を務めるJ A鳥取中央の栗原組合長と企画運営委員長の妹尾中部総合事務所農林局長が、期間中に届いた約650通のはがきの中から100人の当選者を決定した。

スタンプラリーは5月8日～6月30日まで中部管内の直売所や飲食店などの加盟80店舗で実施し、集めたスタンプに応じて旬のスイカや特産の鳥取和牛、二十世紀などの豪華景品が当たる。

応募者からは「地元の行った事のないお店に行く良いきっかけになった」などの声があった。



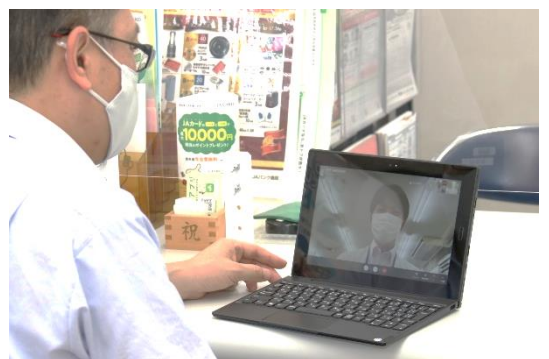
## (3) J A鳥取西部の取り組み

### ① 信用事業店舗および相談・取次所でオンライン相談開始

J A鳥取西部は、信用事業店舗および相談・取次所への遠隔相談タブレット端末を9台導入し、ウェブ会議システムを活用して組合員や利用者とのオンライン相談を始めた。

オンライン相談の運用で、組合員や利用者は、最寄りの相談・取次所から総合支所などにいる職員と相談ができ、感染リスクを抑えながらコロナ禍で進む「新しい生活様式」でも相談機能を発揮する。

また、支所窓口に透明アクリル板やビニールカーテンの設置で飛沫感染防止を徹底し、非接触式検知器（サーモマネージャー）を来店客数の多い信用事業店舗に導入し、安心してJ Aを訪問してもらえる環境も整えた。



## ② 情報発信を強化。組合員専用ページ改修やSNSの開設

J A鳥取西部は、公式ホームページ内にある組合員専用ページの改修とツイッターに公式アカウント (@jatottoriseibu) を開設した。

組合員専用ページは、市況情報や病虫害情報などのPDFを、簡易表示またはダウンロード選択ができるように改修した。ツイッターの公式アカウントは、J Aの公式ホームページの更新状況、お知らせなどの情報を適宜配信予定である。



## ③ 夏秋ピーマン生産強化を目指す。21年度は生産者増

J A鳥取西部ピーマン部会は6月10日、日南町で役員会を開いた。令和3年産夏秋ピーマンの生産販売計画や出荷規格、出荷取り扱いなどで意見を交わした。

同J Aは令和3年度から夏秋ピーマンを生産強化品目に設定。若手生産者に栽培を呼びかけるなど産地拡大に取り組み、令和3年度は生産者が前年より9人増える見込みである。



## (4) J A全農とっりの取り組み

### ① 鳥取すいかセレモニーを開催

6月4日に、毎年恒例となる鳥取すいかのセレモニーを大阪市中央卸売市場にて開催した。

本年もコロナ禍により、鳥取開場と大阪会場をリモートで中継しての開催となった。鳥取の産地の熱い思いを市場関係者へしっかりとPRし販売促進を図った。



## ② 鳥取すいかPR

6月9日、エフエム東京管内6番組のパーソナリティから鳥取すいかを紹介していただき、プレゼント企画として各番組のツイッターアカウントおよび本会「全農広報部 食農応援」アカウントで鳥取すいかのPR活動を行った。

6月20日には、「鳥取すいかオンライン収穫」を開催した。Instagramの「鳥取くだもの応援隊」アカウントを通じて参加者を募集し、抽選で3組のご家族に参加いただいた。オンラインで生産者と参加者を繋ぎ、オンライン上で収穫体験をしていただいた。新たな需要の開拓に向けた取り組みとなった。



## (5) JA鳥取信連の取り組み

### JAカード推進イベント開催

6月15日、直売所“ハワイ夢マート”でJAカード推進イベントを実施した。

同直売所はJA鳥取中央羽合支所と同じ敷地内に立地し、山陰道を降りてすぐという交通のアクセスもいいことから旬の農産物を求めて遠方から多くの方が訪れる。イベント当日も県東部の鳥取市、岩美町などにお住まいの方が、最盛期の「大原トマト」を買い求めに来られていた。

今回のイベントには、JA鳥取中央本所と羽合支所の金融課・共済課の職員、本会の職員が参加しイベントを盛り上げた。2時間の実施で予約9件のうち6件（6月30日時点）成約に結び付けることができ、アンケートも77枚回収することができた。（成約は、羽合支所：3件、大栄支所1件、倉吉支所1件、北条支所1件）

イベント終了後、羽合支所の穂久金融課長からは、「これまで共済課と一緒に何かに取り組むという機会が少なかったが、今回のイベントで店舗が一体となって取り組めたことがよかった。」と、支所職員が一丸となって取り組む大切さを実感したイベントとなった。



## (6) J A 共済連鳥取の取り組み

### 鳥取大学および公立鳥取環境大学への「星空舞」の寄贈について

J A 共済では、コロナ禍で経済的に影響を受けている県内の大学生を支援するため、鳥取大学および公立鳥取環境大学へ「星空舞」合計1,200袋(2kg/袋)を寄贈した。

寄贈先の大学からは「当大学には県外出身の学生が多く在籍しており、このお米を食べてもらい、鳥取県の農業や地域へ関心を持っていただきたい。」といった感想をいただいた。

今後もJ A 共済では、地域の発展・振興に役立つような地域貢献活動を行っていく。



鳥取大学への寄贈式の様子(6月30日)

左から森山本部長、影井会長、中島学長、田村理事



公立鳥取環境大学への寄贈式の様子(7月7日)

左から森山本部長、学生代表の川口さん、江崎学長

以上